

令和7年度 上田市立川西小学校 自己評価 (後期)

学校教育目標		めざす子どもの姿	総合評価					
自ら考え ともに高め合い かがやく子	①進んで体を鍛え、明るく、元気よく活動する子(体) ②自らねばり強く考え、課題を解決しようとする子(知) ③笑顔とあいさつを大切に、友だちと協力し合える子(情) ④自分で考え、進んで物事に取り組む子(意)		①児童会主催のマラソン集会や大なわ大会、おにごっこ集会などを企画し、全校で楽しみながら運動に取り組める機会を増やしたことで前期に比べ運動している児童が増えた。 ②取り組んだことや考えたことについてICTを活用してまとめたり発信したりする活動を多く取り入れたことで、課題をやり遂げられる児童が増えた。 ③あいさつ隊の活動が下級生にも広がりいろいろな学年の児童が混ざってあいさつをしている姿が見られるようになった。異学年の活動を取り入れ更にお互いの良さに気づけるようにしていきたい。 ④じぶこえ集会では、自ら発表したい、進みたいと立候補したりと主体的に取り組む姿が見られた。自分で考えたことが実現できるような活動を増やしていきたい。					
	今年度の重点目標 【 自分を超える 】		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	①	「主体的・対話的で深い学び」の実現	課題解決の見通しを語れる児童が増えてきて、主体的に取り組む姿が多く見られるようになった。目的意識をもって学習できるような授業づくりに努めたことで主体的に学びに向かう姿が見られた。		○			子どもたち同士で話し合ったり教え合ったりして学習を進める姿が増えてきたので、更に自分で考える場面や問いをもつ時間を大切に授業づくりに努めていく。
	②	「探究的な学習」の充実	子どもたちの願いを実現していくための授業づくりに取り組んできた。じぶこえDay(自主学習)では、個々にすぎなことや得意なことに取り組みまとめる活動を行ってきたが、やりたいことが見つけれない児童も多いことが課題である。			○		自ら問いをもつことができるように、本物に触れたり、多様な人の考えに触れたりする機会を意図的に取り入れる。地域の人やこと、ものを活用させていただき、感動体験が積み重ねられるようにしていく。
	③	通常学級における特別支援教育の充実	合理的配慮についてのハンドブックを活用しながらそれぞれのクラスに必要な支援を実践してきた。文字やマスのおおきさに配慮しながら学習教材を作成した。			○		今年度の成果を生かしさらにブラッシュアップさせ、どのクラスでも安心して学べる授業作りに取り組んでいく。合理的配慮についての研修を継続させる。
③	校内支援体制・環境の整備	支援会議を重ねることで、児童理解を深め保護者の協力を得ながら支援の方向を見出すことができた。外部の関係機関とも連携しスピード感をもって対応することができた。			○		一人一人の児童理解にさらに努めると共に、個に応じた必要な支援を保護者と共に考えられるように支援会議の質を高めていく。個々の居場所づくりを工夫していきたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
		楽しい学校づくり	児童一人ひとりが、「できた」「わかった」「楽しい」「うれしい」と実感できる学校になっているか。	アイウエオ	どの子も安心して学べる教室づくりを目指し、後期は外部講師を招いて合理的配慮についての研修を複数回実施した。1時間のめあてを明確にしたり、教材教具を工夫したりするなど授業改善を進めた。アンケートでは88%の児童が授業が分かりやすと回答した。			○		どの子も安心して学べる環境づくりに継続して取り組み、それぞれの願いに寄り添った授業づくりに努める。そのための、教材研究と児童理解の時間を学校として確保していく。
教育活動	体力向上	運動への取り組み	だれかと一緒に運動する楽しさや体を動かすことの楽しさを感じることができる取り組みをしているか。	アイウエ	児童会主催のマラソン集会や大なわ大会、おにごっこ集会などを企画し、全校で楽しみながら運動に取り組める機会を増やした。個々の取り組みには差があるが、大なわではクラス休み時間を使って練習するクラスもあった。前期に比べ運動していると回答した児童が5%増えた。			○		子どもたち同士で運動を楽しんだり高め合ったりする姿が増えるように、引き続き児童会主体の活動を多く設定していく。休み時間、校庭のゾーンを分けて様々な運動に親しむことができるようにしていく。
		規則正しい生活リズムの構築	「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を意識した生活ができるよう、継続した指導を行っているか。	アイウエ	発育測定の際の保健指導や保健室だよりを通して、基本的な生活習慣についての指導に努めた。依然として夜遅くまでメディアに関わっている児童も多いことが課題であるがそのことによる欠席遅刻は減ってきている。			○		朝の時間にゆとりをもたせ、子どもたちの健康観察を丁寧に行うようにする。必要に応じて、健康教育的内容を朝の会に盛り込む。情報モラルやリテラシーの学習に学校全体で取り組む。
	学力向上	「主体的・対話的で深い学び」の実現	児童が学びの主(主人公)になっているか。	アイウエオ	子どもたちの対話で進んでいく授業を目指し、教師の出を必要最小限にすることを心掛けた。課題解決の見通しを語れる児童も少しずつ増えてきて、主体的に取り組む姿が多く見られるようになった			○		教師の出が必要最小限にしていくための意識改革に引き続き取り組む。子どもたち自身が興味関心をもてる課題設定について研究を深めていくために、教師が互いの授業を見合い研修に努める。
		自由進度学習やICT機器の活用など、未来に生きて働く力を育む教育手法を取り入れているか。	アイウエオ	算数ではデジタル教科書を活用してワークシートを作成したり、児童同士で課題解決方法を説明したりしている。学習のまとめの場面で作成したスライドなどをクラウドで共有してお互いの考えを交流できるようにした。学級ごとに活用状況に差があることが課題である。浦里小との遠隔授業に取り組んだ。			○		同一集団の学びに限らず、浦里小学校との遠隔教育を通して、個々の見方や考え方を広げたり深めたりできるようにする。そのためにICTを有効的に活用できるように、研修を重ねる。	
	「探究的な学習」の充実	地域に学ぶ学習や課題解決力を高める学習が実践されているか	アイウエオ	買い物、火起こし、調理活動など、子どもたちの願いを実現していくための授業づくりに取り組んできた。じぶこえDay(自主学習)では、個々にすぎなことや得意なことに取り組みまとめる活動を行ってきたが、やりたいことが見つけれない児童も多いことが課題である。			○		子どもたちの願いを大切に聞き取りながら、どの学年でも地域に学ぶ学習を実施する。引き続き地域の学習支援ボランティアを募り、充実した活動・学習になるように支援していただく。自主学習は、学校全体の取組は中止し、各学年が主体で計画していく。	
	教情育操	居心地のよい学級づくり	児童が自己肯定感を持ち、安心して生活できるための取り組みを進めているか。	アイウエ	後期もじぶこえ集会を継続して実施した。発表希望者がどんどん増え、発表内容も多様化してきた。進行役にも多くの児童が取り組んだ。異学年の中で認められたり活躍したりすることで、自己有用感を得られている。			○		じぶこえ集会については、児童会が主体的に運営できる仕組みをつくり、持続可能な形を模索していく。異学年での活動を増やし、縦のつながりの中で安心感や事故有用感を得られるように工夫していく。
	自主・自立を育てる	児童会・係活動	「自分たちの学校を自分たちでより良くする」という視点を大事にした活動を計画・実践しているか。	アイウエ	6年生の100日チャレンジから始まったあいさつ隊の活動が、下級生にも広がり、毎朝昇降口でいろいろな学年の児童が混ざってあいさつをしている姿が見られる。川西小まつりでは各委員会が工夫を凝らしてお店を開き、全校で交流を楽しんだ。			○		児童会の当番活動に高学年児童が責任をもって取り組めるように、職員全体で見守っていく。川西小まつりなどの企画活動については子どもたちの願いが実現するように計画を確実にして準備時間等確保する。
		家庭学習の充実	「紡ぐ」や「自主学習ウィーク」を活用した、計画的な家庭学習の習慣化が図られているか。	アイウエ	全員に等しく同じ課題を出すことから脱却し、個に応じた量の家庭学習に取り組めるようにした。児童と保護者双方のアンケートから9割の児童は家庭学習の習慣が身につけてきている。			○		引き続き、子どもたちや保護者と対話を重ね個に応じた家庭学習の課題を設定し主体的に取り組めるようにしていく。家庭学習を習慣化できるように家庭に協力をお願いしていく。
		メディアとの関わり	メディアの活用を計画的に行うとともに、適切な関わり方について考え、生かしているか。	アイウエオ	2学期にメディアとの関りについての全校アンケートを行った結果、本校の児童はメディアと関わる時間が県の平均を大きく超えていることが分かった。メディアコントロールでは、各家庭のルールを確認し実践できるように事前指導を行った。			○		メディアコントロールについては大きな課題なので、家庭の協力をお願いしながら、自律的に端末を使っていく力を身につけていきたい。メディアとの関わりについて正しい知識を学べるよう、講演会なども計画していく。
学校運営	連携	コミュニティースクールの充実	学校運営協議会やコーディネーターと連携し、地域やPTAとの協力・支援を図ることができたか。	アイエオ	子どもたちの願いをかなえる授業では、地域の方がボランティアとして支援して下さった。川遊びや花壇づくり、米作り(収穫祭)など川西の人から学ぶ学習ができた。PTA総務委員会では対話の時間を多くとっていただき学校への要望などお聞かせただいて学校運営に生かすことができた。			○		学校運営協議会やPTAの会合で、学校運営に関するご意見を伺って、改善すべきは改善しながら教育活動を進めていきたい。学校での取り組みについて積極的に発信し、様々な活動に協力をしていただけるように努めていく。
	研修	UD化を視点とした授業力の向上	自己課題を改善するため、自己評価や児童からの評価を活かし、日々の授業改善を行っているか。	アイウ	後期も講師を招いて授業のUD化の研修を行った。また、市内の授業UD化実践校への視察を行いその取り組みについて共有した。具体的、視覚的、肯定的な支援について考える時間を職員会の中に位置づけた。			○		授業のUD化についての研究を進める。職員同士が実践したことを紹介し合い学び合える場を作る。楽しく主体的に学べる授業のあり方についてアイディアを出し合いながら授業改善に努める。
	組織	情報の共有および全職員による指導	子どもたちの状況にかかわる情報をチームで共有し、同一歩調で対応できているか。	アイ	連絡アプリを活用しながら事故防止につながることはリアルタイムで保護者と情報の共有ができるように努めた。支援会議を通して適切な支援について家庭や関係機関と協力しながら考えることができた。			○		クラウドを活用しながら校務DXを進める。それにより迅速に情報共有をしたり、教材研究に使える時間を生み出したりしていく。支援会議のあり方については研究を進める。

○評価方法 ア：教師自身による評価 イ：学校長による評価 ウ：児童アンケート エ：保護者アンケート オ：学校運営協議会委員アンケート

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった